

フリー アドレス

大成温調株式会社
加藤 真里奈

こんにちは。私は大成温調株式会社の加藤と申します。今回、株式会社川本製作所の彦坂様よりリレーのボタンを頂きました。まずは弊社について簡単に紹介させてください。弊社は1941年の創業以来、空調・衛生・電気等の建築設備を設計・施工しております。自社ブランド「LIVZON(リブゾン)」を掲げ、「たてものを、いきものに」をブランドステートメントとしています。この言葉に込められた想いを一人ひとりが大切にしながら、「総合たてものサービス企業」への飛躍を目指しております。

弊社は、創業以来「大井町で成功しよう」という社名の由来の通り、大井町の地に根差し歩を進めて参りました。そんな弊社が同じ大井町にて2026年8月に本社を移転することとなりました。本社の移転が決定した理由のひとつに「分散している本社オフィスを集約する」というものがございます。その中で、新たな取り組みとしてフリーアドレス制度を導入します。これまで当たり前のようにあった個人用のデスクがなくなり、与えられるのは小さな個人ロッカーひとつ。新しい働き方への期待がある一方で、今はデスク周りの整理に追われる毎日です。

まず壁として立ち上がったのは「ペーパーレス化」でした。建設業界もDXが進み、現場も事務所も昔に比べて紙の使用量が圧倒的に減りました。紙ベースでの業務もだいぶ電子化が進み、最近の業務はタブレットとノートパソコンだけで完結できるものも多くなりました。しかし、長年同じ場所にあつ

た本社には、図面や施工記録、契約書など、圧倒的な紙の物量がありました。そしてその積み重なった資料の電子化にはかなり時間を要しました。ペーパーレス化は昨年度頭から約1年をかけて行いました。紙の資料をスキャンし、共有フォルダへ保存する作業が続いていますが、これも思った以上に時間がかかります。スキャンして保存するだけなら簡単ですが、行方不明にならないよう「後から探せる状態」にするにはひと手間もふた手間も必要です。

それでも作業を続けながら感じるのは、これは単なる紙を処分する作業ではないということです。何を残し、何を手放すのか。その判断を繰り返していると、自分がどんな情報を大切にしてきたのかが見えてきます。机や棚の中に眠っている資料を見直し、個人が抱えていた情報を組織の知識や財産として共有する。これも立派なDXの一步ではないかと思えます。もちろん、「これは本当に捨てて大丈夫だろうか」と迷う場面もたくさんあります。それでも、限られたロッカーに収まるだけの荷物にしようと奮闘する中で、必要なものを見極める力、選ぶ力を養われているような気がしています。

本社の移転に伴う大掃除を通して、これからの働き方や情報との付き合い方を見直す良いきっかけになりました。フリーアドレス化に伴い、これまで当然のようにあった自分のデスクというテリトリーがなくなるということ、周囲にいた部署のメンバーがばらばらになってしまうことには名残惜しさも感じます。しかし同時に、これまでの部署間の垣根が取っ払われることであまり会話することがなかった別部署のメンバーと接する機会が増えること、毎日見える景色が変わることを前向きに捉え、新しい環境での働き方を楽しんでいきたいと思えます。

今回の放談は私と同じく事業委員会でお世話になっております東洋熱工業株式会社の村尾様にリレーのボタンをお渡しさせていただきます。